

平成 17 年 10 月 31 日

各 位

会社名 株式会社松屋フーズ
代表者名 代表取締役社長 瓦葺 利夫
コード番号 (9887 東証第1部)
問合せ先 経営管理部長 鈴木 治夫
(TEL: 03-3904-1121)

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績の動向等を踏まえ、平成 17 年 7 月 29 日の第 1 四半期業績概況発表時に公表した業績予想を下記のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

1. 平成 18 年 3 月期 連結業績予想数値の修正

中間期(平成 17 年 4 月 1 日～平成 17 年 9 月 30 日) (単位:百万円、%)

	売上高	経常利益	当期純利益
前回発表予想(A)	28,940	1,400	160
今回発表予想(B)	28,266	1,686	678
増減額(B-A)	673	286	518
増減率(%)	2.3	20.4	324.0
(ご参考)前中間期実績(C) (平成 17 年 3 月期中間期)	26,860	438	33

2. 平成 18 年 3 月期 個別業績予想数値の修正

中間期(平成 17 年 4 月 1 日～平成 17 年 9 月 30 日) (単位:百万円、%)

	売上高	経常利益	当期純利益
前回発表予想(A)	28,850	1,450	250
今回発表予想(B)	28,182	1,787	792
増減額(B-A)	667	337	542
増減率(%)	2.3	23.2	217.2
(ご参考)前中間期実績(C) (平成 17 年 3 月期中間期)	26,793	395	84

3. 修正の理由

平成 17 年 7 月 29 日時点で、平成 18 年 3 月期中間期の連結予想当期純利益を 160 百万円としていましたが、実績は 678 百万円と 518 百万円の増益となりました。

同様に、平成 18 年 3 月期中間期の個別予想当期純利益を 250 百万円としていましたが、実績は 792 百万円と 542 百万円の増益となりました。

これは、既存店売上高が前年を下回りで推移したこと等により、売上高は前回予想を若干下回ったものの、商品の開発輸入拡大や調達先の多様化を推進したこと、主要食材である米の価格が低下したこと等による原価率の低減及び人件費コントロールを積極的に推進したこと等による販管費の売上高に占める割合の低減努力等により、経常利益段階で前回予想を上回ったことによるものです。

加えて、特別利益として、国庫等補助金収入益(富士山工場建設に伴う富士宮市企業立地促進事業にかかる補助金)200 百万円を計上したこと等によるものであります。

4. 平成 18 年 3 月期 連結業績予想数値の修正

通期 (平成 17 年 4 月 1 日 ~ 平成 18 年 3 月 31 日) (単位: 百万円、%)

	売上高	経常利益	当期純利益
前回発表予想(A)	60,170	4,020	1,390
今回発表予想(B)	58,290	4,020	1,550
増減額(B-A)	1,880	0	160
増減率(%)	3.1	0	11.5
(ご参考)前期実績(C) (平成 17 年 3 月期)	56,715	2,711	1,121

5. 平成 18 年 3 月期 個別業績予想数値の修正

通期 (平成 17 年 4 月 1 日 ~ 平成 18 年 3 月 31 日) (単位: 百万円、%)

	売上高	経常利益	当期純利益
前回発表予想(A)	60,000	4,000	1,450
今回発表予想(B)	58,070	4,000	1,600
増減額(B-A)	1,930	0	150
増減率(%)	3.2	0	10.3
(ご参考)前期実績(C) (平成 17 年 3 月期)	56,585	2,557	1,089

6. 修正の理由

前回予想時の出店計画 70 店舗を 60 店舗に修正したことから、売上高の減少が見込まれますが、経常利益は、上期に引続き、原価率の低減努力及び人件費コントロールの推進等により前回予想と同様の水準を見込んでおります。

当期純利益は、連結で 1,550 百万円、個別で 1,600 百万円を見込んでおります。

以上